

研究ノート

地域連携事業が管理栄養士養成課程の 学生に及ぼす効果

——社会人基礎力の自己評価より——

Effects of Regional Collaboration Projects on Registered Dietetic Students :
Evaluation by Fundamental Competencies for Working Persons

村井陽子・多門隆子
堀野成代・竹山育子
杉山文・水野淨子

キーワード 地域連携事業、管理栄養士、学生、社会人基礎力

I. はじめに

人間発達学部発達栄養学科は2006年に開設され、早期より産官学連携による地域連携事業に取り組んできた。地域連携事業は、地域の課題の解決や活性化に貢献するとともに、学生には、年齢も価値観も異なる人々との交流や様々な経験を通して、実践力を育む貴重な機会となっている。例えば、地方自治体などと「食と健康」に関する分野について協定を締結し、協議を通して相互に理解を深め、多くの食育プロジェクトを展開している。また、外食産業・食品企業と共同で商品開発を行う商品開発プロジェクトの数も年々増加している。これまで、弁当、おにぎり、レトルトカレー、和菓子、おせち料理、パンなどの商品に、管理栄養士を目指す学生の視点を取り入れ、開発を進めてきた。

これらの参加希望の学生を募る地域連携事業の他に、授業の中でも、地域連携による取り組みを学年に応じて位置付けている。1年次の授業では、導入教育の一環として、まず「食育総論」で、学校・地域、福祉施設・医療機関、外食産業・食品企業など各分野で取り組まれている食育について専門家たちから学び、管理栄養士が果たす役割について知る。次に「産官学食育実践演習」で、実際に企業や中央卸売市場での施設見学・講義を通して、現場での体験学習を行う。2年次では、「栄養教育論」で学修した行動理論や栄養教育マネジメントの実践の場として、地域の子どもたちを対象とした「食育キャンペーン」を計画し、実践する。さらに3年次には大阪府立急性期・総合医療センターと連携して「糖尿病フェスタ」を開催している。学生たちは、公衆栄養学や臨床栄養学で学んだことを活かして「野菜」や「減塩」をテーマに

多数の来場者にプレゼンや紙芝居をしたり、体脂肪測定を行ったりする。最終の4年次には、卒業研究のゼミ単位で、大阪市住之江区と連携した公開講座「ヘルシーダイエット教室」の開催や、企業と連携した成人を対象とした食育プロジェクトに取り組んでいる。4年次の取り組みは、具体的に生活習慣病の一次予防を目指して、栄養・食生活相談を取り入れ、対象と目的を絞った実践となっている。

そこで、これらの地域連携事業を通じた実践教育が学生の能力の向上にいかに関与しているかを振り返らせるため、2013年度より、新しい学年が始まる4月に、「社会人基礎力」の学生による自己評価を行うことにした。「社会人基礎力」は、『前に踏み出す力』、『考え抜く力』、『チームで働く力』の3つの能力と12の能力要素（本稿では、能力は『 』、能力要素は「 」で示す）から構成されており、経済産業省が「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」として2006年から提唱している。本研究では、2013年度管理栄養士課程入学者の自己評価の結果についてまとめ、地域連携事業参加の有無と学生の自己評価による社会人基礎力との関連を明らかにして、地域連携事業が学生に及ぼす効果について検討した。

Ⅱ. 方 法

1. 対象者

2013年4月に本学の管理栄養士課程に入学した66名を対象とした。そのうち、1年次、2年次、3年次に社会人基礎力の自己評価を行い、欠損値がなかった55名（男子6名、女子49名）を解析対象とした。

2. 地域連携事業

2013年入学生が参加した地域連携事業を、ボランティアとして参加する食育イベントの食育プロジェクトと商品開発を目的とする商品開発プロジェクトに分類して、表1にまとめた。これらの事業は、連携先と協議して詳細が決まった時点で、学生に掲示で告知を行い、必要に応じて説明会を実施して希望者を募った。希望者が多い場合は、希望動機や抱負を書かせて提出させ、選出した。ただし、大学主催食育推進キャンペーンは、「栄養教育論実習」の総仕上げの場として開催し、2年次の2014年2月に全員が参加した。

3. 社会人基礎力の評価

経済産業省が社会人基礎力育成・評価のためのリファレンスブック²⁾に掲載しているプログレスシートを参考にして、発達栄養学科プログレスシート（あゆみと成長の記録）を作成した。評価項目は、経済産業省が提唱する社会人基礎力の『前に踏み出す力（アクション）』として「主体性」、「働きかけ力」、「実行力」、『考え抜く力（シンキング）』として「課題発見力」、「計画力」、「創造力」、『チームで働く力（チームワーク）』として「発信力」、「傾聴力」、「柔軟性」、「状況把握力」、「規律性」、「ストレスコントロール力」の12の能力要素で構成した。これらの能力要素は、その定義、発揮できた例とともに示した。各項目の評価は、レベル1「どうしてもできない」、レベル2「何とかできる」、レベル3「見事にできる」、「とても難しいが、何とかできる」の3段階のレベル評価とした。学生による社会人基礎力の自己評価は、新しい学年が始まる4月に、地域連携担当の複数の教員が、「食育総論」、「栄養教育論」、「公衆栄養学」などの関連教科の授業の中で実

表1 2013年入学生が参加した地域連携事業一覧 (2013.4~2015.3)

| 年次 | 事業名 | 参加人数 |
|-------------------|---------------------------|--------|
| 1年次 | 〈食育プロジェクト〉 | |
| | 住之江区みんなの健康展 | 4 |
| | カゴメ(株)主催親子料理教室 | 4 |
| | 豊中市教育委員会主催親子料理教室(幼稚園、小学校) | 12 |
| | 〈商品開発プロジェクト〉 | |
| | 大阪府主催愛情お弁当コンテスト(入賞) | 1 |
| | 老舗料亭「徳」との連携によるレトルトカレー開発 | 5 |
| | 老舗料亭「徳」との連携によるお弁当開発 | 14 |
| 2年次 | 〈食育プロジェクト〉 | |
| | 市民公開フォーラム(カゴメ(株)とのブース出展) | 2 |
| | カゴメ(株)主催親子料理教室 | 18 |
| | 大阪府主催おおさか食育フェスタ | 3 |
| | カゴメ(株)主催万代ドリームワールド | 9 |
| | 住之江区食と健康 夏フェスタ | 4 |
| | カゴメ(株)主催親子オムライス教室 | 8 |
| | 豊中市教育委員会主催親子料理教室(幼稚園、小学校) | 6 |
| | 東大阪市立森河内小学校主催児童対象料理教室 | 5 |
| | 相愛大学主催第8回食育推進キャンペーン | 55 |
| | | (全員参加) |
| | 〈商品開発プロジェクト〉 | |
| | 老舗料亭「徳」との連携によるお弁当開発 | 10 |
| | カゴメ(株)主催『オムライス甲子園』(入賞) | 1 |
| 京阪百貨店・KYK 連携お弁当開発 | 1 | |

※複数のプロジェクトに参加した学生は、重複して参加人数に含めた。

施した。プログレスシートは、前年度の評価の影響を避けるため毎年新しいシートを使用し、該当学年の自己評価が終了すると学年単位で施錠できるロッカーに保管した。1年次の4月当初の評価は地域連携事業参加前の評価であり、2年次4月の評価には1年次の地域連携事業参加の効果が、3年次4月の評価には1年次から2年次2年間の効果が順次反映される。なお、地域連携事業への参加状況は、学生が参加した事業毎に実施日、事業名、主催者、主な内容、実施場所を記録した地域連携活動記録シートより把握した。

4. 統計解析

社会人基礎力の能力要素の評価は、「どうしてもできない」を1点、「何とかできる」を2

点、「見事にできる」または「とても難しいが、何とかできる」を3点と得点化した。『前に踏み出す力』、『考え抜く力』、『チームで働く力』の3つの能力は、それぞれの能力要素の合計得点とした。地域連携事業参加の有無と社会人基礎力との関連を調べるため、全員が参加した大学主催食育推進キャンペーンを除いて、期間中に希望して地域連携事業に1回以上参加した学生を「参加あり群」、参加していない学生を「参加なし群」の2群に分けた。また、地域連携事業は、食育プロジェクトと商品開発プロジェクトに分けて検討した。社会人基礎力の学年間の差の検定には Wilcoxon の符号付き順位和検定、地域連携事業参加の有無による社会人基礎力の差の検定には Mann-Whitney の U 検定を用いた。解析には IBM SPSS Statistics 22

(日本 IBM) を用い、有意水準は 5% とした。

5. 倫理的配慮

プログレスシート記入前に、学生には社会人基礎力の自己評価の意義、個人情報保護の保護、自己評価結果が成績評価等に不利益を生じないことなどを口頭で説明した。評価のためのプログレスシートには、学年、学籍番号、氏名の記入を求めたが、評価結果のデータは個人別に学年を追って対応させた後、個人が特定されないことのないように、ID 番号を付して管理した。

III. 結 果

1. 社会人基礎力の推移と学年間の比較 (表 2)

1 年次 4 月の社会人基礎力の能力要素のうち、平均値が「何とかできる」の 2 以上を示した要素は、「傾聴力」、「柔軟性」、「規律性」、

「ストレスコントロール力」であった。逆に「働きかけ力」、「創造力」、「発信力」は 1.5 ± 0.6 から 1.6 ± 0.8 であり、他の能力要素と比べて低い値を示した。これらの能力要素は、2 年次、3 年次に向上しているものの、2 以上に達しなかった。

1 年次と 2 年次の社会人基礎力を比較すると、『前に踏み出す力』、「主体性」、「実行力」、「課題発見力」、「チームで働く力」、「発信力」、「傾聴力」、「柔軟性」、「状況把握力」、「規律性」が有意に向上した。2 年次と 3 年次の比較では、『前に踏み出す力』と「働きかけ力」が有意に向上した。

2. 1 年次の地域連携事業参加の有無と社会人基礎力の関連 (表 3)

1 年次に地域連携事業の食育プロジェクトに 1 回から複数回参加した学生は 55 名のうち 17

表 2 社会人基礎力の推移と学年間の比較

| 能力 ¹ | (得点範囲) | 1 年次 (4 月) | 2 年次 (4 月) | 3 年次 (4 月) | 学年間 | | |
|-----------------|-------------|---------------|---------------|---------------|------------------|------------------|---------|
| | | | | | 1 年次 vs. 2 年次 | 2 年次 vs. 3 年次 | |
| | | | | | p 値 ² | p 値 ² | |
| 前に踏み出す力 | (3~9) | 5.1±1.1 | 5.8±1.2 | 6.1±1.1 | 0.005** | 0.020* | |
| 要素 | 主体性 | (1~3) | 1.8±0.5 | 2.0±0.5 | 2.1±0.4 | 0.012* | 0.346 |
| | 働きかけ力 | (1~3) | 1.5±0.6 | 1.6±0.5 | 1.9±0.5 | 0.144 | 0.002** |
| | 実行力 | (1~3) | 1.9±0.6 | 2.2±0.5 | 2.2±0.5 | 0.017* | 0.835 |
| 考え抜く力 | (3~9) | 5.2±1.5 | 5.6±1.3 | 5.9±1.3 | 0.263 | 0.058 | |
| 要素 | 課題発見力 | (1~3) | 1.8±0.5 | 2.0±0.6 | 2.1±0.5 | 0.044* | 0.216 |
| | 計画力 | (1~3) | 1.9±0.7 | 1.9±0.5 | 2.0±0.6 | 0.622 | 0.201 |
| | 創造力 | (1~3) | 1.6±0.8 | 1.7±0.6 | 1.8±0.6 | 0.718 | 0.233 |
| チームで働く力 | (6~18) | 11.8±2.1 | 13.2±2.2 | 12.9±2.2 | <0.001*** | 0.667 | |
| 要素 | 発信力 | (1~3) | 1.5±0.6 | 1.9±0.6 | 1.8±0.6 | 0.006** | 0.694 |
| | 傾聴力 | (1~3) | 2.1±0.6 | 2.4±0.6 | 2.4±0.6 | 0.023* | 0.870 |
| | 柔軟性 | (1~3) | 2.0±0.6 | 2.2±0.6 | 2.2±0.5 | 0.038* | 0.597 |
| | 状況把握力 | (1~3) | 1.8±0.6 | 2.1±0.5 | 2.0±0.5 | 0.014* | 0.275 |
| | 規律性 | (1~3) | 2.2±0.5 | 2.5±0.5 | 2.5±0.6 | 0.004** | 0.827 |
| | ストレスコントロール力 | (1~3) | 2.2±0.8 | 2.2±0.6 | 2.2±0.7 | 0.493 | 0.465 |

¹能力要素の評価は、「どうしてもできない」を 1 点、「何とかできる」を 2 点、「見事にはできる」または「とても難しいが、何とかできる」を 3 点と得点化し、平均値±標準偏差で示す。『前に踏み出す力』、『考え抜く力』、『チームで働く力』の 3 つの能力は、それぞれの能力要素の合計得点の平均値±標準偏差で示す。

²Wilcoxon の符号付き順位和検定による。 *p<0.05, **p<0.01, ***p<0.001

名 (30.9%)、商品開発プロジェクトに1回から複数回参加した学生は14名 (25.5%)であった。地域連携事業参加前の1年次4月と、1年次の参加の効果が反映される2年次4月の社会人基礎力を、参加の有無別に比較した。1年次4月には、食育プロジェクト、商品開発プロ

ジェクトともに参加あり群、なし群間で社会人基礎力に有意な差はみられなかった。2年次4月には、食育プロジェクトでは、「状況把握力」、「規律性」が、参加あり群で参加なし群より有意に高い値を示した。同様に、商品開発プロジェクトでは、「前に踏み出す力」、「主体

表3 1年次の地域連携事業参加の有無と社会人基礎力の関連

| 能力 ¹ | (得点範囲) | 1年次(4月) | | | 2年次(4月) | | | |
|-----------------|--------------|----------|----------|-----------------|----------|----------|-----------------|---------|
| | | 参加あり群 | 参加なし群 | p値 ² | 参加あり群 | 参加なし群 | p値 ² | |
| 〈食育プロジェクト〉 | | (n=17) | (n=38) | | (n=17) | (n=38) | | |
| 前に踏み出す力 | (3~9) | 5.2±1.3 | 5.1±1.1 | 0.723 | 6.1±0.9 | 5.6±1.2 | 0.093 | |
| 要素 | 主体性 | (1~3) | 1.9±0.6 | 1.7±0.5 | 0.315 | 2.2±0.4 | 1.9±0.5 | 0.086 |
| | 働きかけ力 | (1~3) | 1.4±0.5 | 1.5±0.6 | 0.442 | 1.8±0.6 | 1.5±0.5 | 0.152 |
| | 実行力 | (1~3) | 2.0±0.7 | 1.9±0.6 | 0.494 | 2.2±0.5 | 2.1±0.5 | 0.775 |
| 考え抜く力 | (3~9) | 5.1±1.3 | 5.3±1.7 | 0.838 | 6.1±1.6 | 5.3±1.0 | 0.099 | |
| 要素 | 課題発見力 | (1~3) | 1.8±0.4 | 1.8±0.6 | 0.887 | 2.1±0.7 | 2.0±0.6 | 0.549 |
| | 計画力 | (1~3) | 1.9±0.6 | 1.9±0.7 | 0.895 | 2.1±0.5 | 1.8±0.5 | 0.062 |
| | 創造力 | (1~3) | 1.5±0.7 | 1.7±0.8 | 0.441 | 1.9±0.7 | 1.6±0.5 | 0.094 |
| チームで働く力 | (6~18) | 11.8±2.0 | 11.8±2.2 | 0.978 | 13.9±2.2 | 12.9±2.2 | 0.138 | |
| 要素 | 発信力 | (1~3) | 1.5±0.7 | 1.5±0.6 | 0.975 | 1.9±0.6 | 1.8±0.6 | 0.440 |
| | 傾聴力 | (1~3) | 2.2±0.6 | 2.1±0.5 | 0.530 | 2.5±0.5 | 2.3±0.6 | 0.287 |
| | 柔軟性 | (1~3) | 1.9±0.7 | 2.0±0.5 | 0.712 | 2.2±0.6 | 2.2±0.6 | 0.933 |
| | 状況把握力 | (1~3) | 1.9±0.6 | 1.8±0.6 | 0.704 | 2.3±0.5 | 2.0±0.5 | 0.015* |
| | 規律性 | (1~3) | 2.1±0.6 | 2.3±0.5 | 0.400 | 2.7±0.5 | 2.4±0.5 | 0.022* |
| | ストレスコントロール力 | (1~3) | 2.1±0.8 | 2.2±0.8 | 0.762 | 2.2±0.7 | 2.2±0.6 | 0.992 |
| | 〈商品開発プロジェクト〉 | | (n=14) | (n=41) | | (n=14) | (n=41) | |
| 前に踏み出す力 | (3~9) | 5.1±1.2 | 5.1±1.1 | 0.807 | 6.4±0.8 | 5.5±1.2 | 0.017* | |
| 要素 | 主体性 | (1~3) | 1.9±0.6 | 1.7±0.5 | 0.217 | 2.3±0.5 | 1.9±0.5 | 0.015* |
| | 働きかけ力 | (1~3) | 1.3±0.5 | 1.5±0.6 | 0.219 | 1.9±0.5 | 1.5±0.5 | 0.047* |
| | 実行力 | (1~3) | 1.9±0.7 | 1.9±0.6 | 0.929 | 2.2±0.4 | 2.1±0.6 | 0.619 |
| 考え抜く力 | (3~9) | 5.1±1.2 | 5.3±1.6 | 0.813 | 6.4±1.3 | 5.3±1.1 | 0.010* | |
| 要素 | 課題発見力 | (1~3) | 1.9±0.4 | 1.7±0.6 | 0.366 | 2.1±0.7 | 1.9±0.6 | 0.265 |
| | 計画力 | (1~3) | 1.9±0.7 | 1.9±0.7 | 0.932 | 2.1±0.5 | 1.9±0.5 | 0.214 |
| | 創造力 | (1~3) | 1.4±0.6 | 1.7±0.8 | 0.194 | 2.1±0.5 | 1.5±0.5 | 0.001** |
| チームで働く力 | (6~18) | 11.5±2.1 | 11.9±2.1 | 0.525 | 14.1±2.2 | 12.9±2.2 | 0.072 | |
| 要素 | 発信力 | (1~3) | 1.6±0.6 | 1.5±0.6 | 0.621 | 2.1±0.5 | 1.8±0.6 | 0.088 |
| | 傾聴力 | (1~3) | 2.1±0.6 | 2.1±0.6 | 0.788 | 2.5±0.5 | 2.3±0.6 | 0.241 |
| | 柔軟性 | (1~3) | 1.9±0.5 | 2.0±0.6 | 0.337 | 2.4±0.5 | 2.2±0.6 | 0.142 |
| | 状況把握力 | (1~3) | 1.9±0.6 | 1.8±0.6 | 0.504 | 2.3±0.5 | 2.0±0.5 | 0.040* |
| | 規律性 | (1~3) | 2.1±0.6 | 2.3±0.5 | 0.279 | 2.6±0.5 | 2.4±0.5 | 0.143 |
| | ストレスコントロール力 | (1~3) | 2.0±0.8 | 2.2±0.8 | 0.351 | 2.2±0.6 | 2.2±0.7 | 0.812 |

※地域連携事業参加前の1年次4月と、1年次の参加の効果が反映される2年次4月の社会人基礎力を、参加の有無別に比較した。

¹能力要素は、「どうしてもできない」を1点、「何とかできる」を2点、「見事にできる」または「とても難しいが、何とかできる」を3点と得点化し、平均値±標準偏差で示す。『前に踏み出す力』、『考え抜く力』、『チームで働く力』の3つの能力は、それぞれの能力要素の合計得点の平均値±標準偏差で示す。

²Mann-WhitneyのU検定による。 *p<0.05, **p<0.01

性]、「働きかけ力」、「考え抜く力」、「創造力」、「情況把握力」が参加あり群で有意に高かった。

3. 1年次から2年次2年間の地域連携事業参加の有無と社会人基礎力の関連 (表4)

地域連携事業参加の期間を1年次と2年次の

2年間に拡大して社会人基礎力との関連を検した。1年次から2年次の2年間に地域連携事業の食育プロジェクトに1回から複数回参加した学生は55名のうち27名(49.0%)、商品開発プロジェクトに1回から複数回参加した学生は24名(43.6%)であった。表には示してい

表4 1年次から2年次2年間の地域連携事業参加の有無と社会人基礎力の関連

| 能力 ¹ | (得点範囲) | 1年次(4月) | | | 3年次(4月) | | | |
|-----------------|-------------|----------|----------|------------------|----------|----------|------------------|--------|
| | | 参加あり群 | 参加なし群 | p 値 ² | 参加あり群 | 参加なし群 | p 値 ² | |
| 〈食育プロジェクト〉 | | (n=27) | (n=28) | | (n=27) | (n=28) | | |
| 前に踏み出す力 | (3~9) | 5.3±1.2 | 5.0±1.1 | 0.316 | 6.3±1.0 | 5.9±1.2 | 0.214 | |
| 要素 | 主体性 | (1~3) | 1.9±0.5 | 1.6±0.5 | 0.083 | 2.2±0.4 | 2.0±0.4 | 0.153 |
| | 働きかけ力 | (1~3) | 1.4±0.5 | 1.5±0.6 | 0.376 | 2.0±0.4 | 1.8±0.6 | 0.291 |
| | 実行力 | (1~3) | 2.0±0.6 | 1.8±0.6 | 0.139 | 2.2±0.5 | 2.1±0.6 | 0.455 |
| 考え抜く力 | (3~9) | 5.1±1.4 | 5.4±1.7 | 0.424 | 6.0±1.1 | 5.8±1.4 | 0.703 | |
| 要素 | 課題発見力 | (1~3) | 1.7±0.5 | 1.8±0.6 | 0.512 | 2.2±0.5 | 2.0±0.5 | 0.418 |
| | 計画力 | (1~3) | 1.9±0.6 | 1.9±0.7 | 0.830 | 2.1±0.5 | 2.0±0.7 | 0.386 |
| | 創造力 | (1~3) | 1.5±0.8 | 1.7±0.8 | 0.238 | 1.7±0.6 | 1.8±0.7 | 0.683 |
| チームで働く力 | (6~18) | 11.7±1.8 | 11.9±2.4 | 0.798 | 13.4±2.2 | 12.4±2.2 | 0.147 | |
| 要素 | 発信力 | (1~3) | 1.5±0.7 | 1.5±0.6 | 0.886 | 1.9±0.6 | 1.8±0.6 | 0.372 |
| | 傾聴力 | (1~3) | 2.1±0.6 | 2.1±0.6 | 0.640 | 2.4±0.5 | 2.3±0.7 | 0.423 |
| | 柔軟性 | (1~3) | 1.9±0.6 | 2.0±0.6 | 0.469 | 2.2±0.6 | 2.1±0.5 | 0.400 |
| | 情況把握力 | (1~3) | 1.9±0.6 | 1.8±0.6 | 0.507 | 2.1±0.6 | 1.8±0.5 | 0.050* |
| | 規律性 | (1~3) | 2.1±0.6 | 2.4±0.5 | 0.059 | 2.4±0.6 | 2.5±0.6 | 0.894 |
| | ストレスコントロール力 | (1~3) | 2.2±0.8 | 2.1±0.7 | 0.534 | 2.3±0.7 | 2.0±0.6 | 0.056 |
| 〈商品開発プロジェクト〉 | | (n=24) | (n=31) | | (n=24) | (n=31) | | |
| 前に踏み出す力 | (3~9) | 5.1±1.1 | 5.1±1.2 | 0.782 | 6.3±1.1 | 6.0±1.1 | 0.284 | |
| 要素 | 主体性 | (1~3) | 1.8±0.6 | 1.7±0.5 | 0.436 | 2.1±0.4 | 2.1±0.4 | 0.846 |
| | 働きかけ力 | (1~3) | 1.4±0.6 | 1.5±0.6 | 0.303 | 1.9±0.5 | 1.9±0.6 | 0.733 |
| | 実行力 | (1~3) | 1.9±0.6 | 1.9±0.7 | 0.914 | 2.3±0.5 | 2.1±0.5 | 0.300 |
| 考え抜く力 | (3~9) | 4.7±1.2 | 5.7±1.6 | 0.038* | 6.1±1.1 | 5.7±1.4 | 0.238 | |
| 要素 | 課題発見力 | (1~3) | 1.7±0.5 | 1.8±0.6 | 0.290 | 2.2±0.6 | 2.0±0.5 | 0.328 |
| | 計画力 | (1~3) | 1.7±0.6 | 2.0±0.7 | 0.113 | 2.0±0.5 | 2.0±0.7 | 0.984 |
| | 創造力 | (1~3) | 1.3±0.6 | 1.8±0.8 | 0.024* | 1.9±0.5 | 1.7±0.7 | 0.112 |
| チームで働く力 | (6~18) | 11.3±1.9 | 12.3±2.2 | 0.095 | 13.5±2.2 | 12.5±2.1 | 0.094 | |
| 要素 | 発信力 | (1~3) | 1.5±0.6 | 1.6±0.7 | 0.685 | 2.0±0.5 | 1.7±0.6 | 0.089 |
| | 傾聴力 | (1~3) | 2.1±0.6 | 2.1±0.6 | 0.774 | 2.4±0.6 | 2.3±0.6 | 0.564 |
| | 柔軟性 | (1~3) | 1.9±0.4 | 2.1±0.6 | 0.219 | 2.3±0.6 | 2.1±0.5 | 0.116 |
| | 情況把握力 | (1~3) | 1.8±0.6 | 1.9±0.6 | 0.599 | 2.2±0.5 | 1.8±0.5 | 0.014* |
| | 規律性 | (1~3) | 2.1±0.5 | 2.3±0.5 | 0.265 | 2.5±0.5 | 2.5±0.6 | 0.870 |
| | ストレスコントロール力 | (1~3) | 1.9±0.8 | 2.4±0.7 | 0.044* | 2.3±0.7 | 2.1±0.7 | 0.371 |

※地域連携事業参加前の1年次4月と、1年次から2年次2年間の参加の効果が反映される3年次4月の社会人基礎力を、参加の有無別に比較した。

¹能力要素は、「どうしてもできない」を1点、「何とかできる」を2点、「見事にできる」または「とても難しいが、何とかできる」を3点と得点化し、平均値±標準偏差で示す。「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の3つの能力は、それぞれの能力要素の合計得点の平均値±標準偏差で示す。

²Mann-Whitney の U 検定による。 *p<0.05

ないが、1年次も2年次も参加した学生は、食育プロジェクトでは11名(20.0%)、商品開発プロジェクトでは1名(1.8%)であった。地域連携事業参加前の1年次4月と、1年次から2年次2年間の参加の効果が反映される3年次4月の社会人基礎力を、参加の有無別に比較した。1年次4月には、食育プロジェクトでは、参加あり群、なし群間で社会人基礎力の有意な差はみられなかった。一方、商品開発プロジェクトでは、『考え抜く力』、『創造力』、『ストレスコントロール力』が、参加あり群で参加なし群より有意に低かった。3年次4月には、食育プロジェクトでも商品開発プロジェクトでも、『情況把握力』が、参加あり群で参加なし群より有意に高い値を示した。また、商品開発プロジェクトで、1年次4月に参加あり群で有意に低かった『考え抜く力』、『創造力』、『ストレスコントロール力』は、3年次4月の評価では向上し、参加なし群との有意な差はみられなくなった。

IV. 考 察

本研究では、年度当初に実施している社会人基礎力を指標とした自己評価の結果をまとめ、地域連携事業参加の有無と社会人基礎力との関連を明らかにして、地域連携事業を通じた実践教育が学生の能力の向上にいかに関与しているかを検討した。経済産業省は「企業や若者を取り巻く環境変化により『基礎学力』、『専門知識』に加え、それらをうまく活用していくための『社会人基礎力』を意識的に育成することが今まで以上に重要となってきた」と説明している¹⁾。栄養士・管理栄養士に関しても例外ではなく、食品企業で働く場合に高いコミュニケーション能力が期待されていること³⁾、市町

村栄養士が新規施策や多岐にわたる業務に対応するため各人の十分な能力を発揮することが重要であること⁴⁾などが報告されている。

対象学生の社会人基礎力の推移をみると、表2に示したように『前に踏み出す力』は1年次より2年次、2年次より3年次と有意に向上したが、『考え抜く力』は有意な向上には至らず、『チームで働く力』は1年次から2年次で有意に向上した。従って、『考え抜く力』の育成は今後の課題といえる。これらの社会人基礎力の向上には、地域連携事業の効果が考えられるが、地域連携事業に全員が同様に参加している訳ではなく、地域連携事業のみで社会人基礎力が向上している訳でもない。そこで、地域連携事業参加の有無との関連を明らかにするため、期間中に希望して地域連携事業に1回以上参加した学生を「参加あり群」、参加していない学生を「参加なし群」とし、2群に分けて社会人基礎力の推移を検討した。

表3から分かるように、1年次に地域連携事業に参加した参加あり群では、2年次4月に参加なし群より有意に高い社会人基礎力の項目がみられ、地域連携事業参加による向上の可能性が示唆された。食育プロジェクトでは、「情況把握力」と「規律性」が有意に高く、学生がチームの一員としての役割を自覚し、周囲の状況を把握しながら行動していることが推察された。また、参加前には、服装や挨拶、言葉遣いなどについて注意を促しており、これが「規律性」の向上に繋がっている。一方、商品開発プロジェクトでは、2年次4月に、『前に踏み出す力』、『主体性』、『働きかけ力』、『考え抜く力』、『創造力』、『情況把握力』が参加あり群で有意に高かった。商品開発プロジェクトでは、連携企業の担当者の指導を受けながら、6~7人のグループで意見を出し合い、新しい商品を

開発することが求められる。従って『前に踏み出す力』や『考え抜く力』は不可欠である。学生全体の傾向として『考え抜く力』は向上しにくく、特に評価の低い「創造力」の向上に商品開発プロジェクトへの参加の効果が示された。1年次の地域連携事業への参加は、多様な管理栄養士の活動を理解し、管理栄養士を目指す気持ちを育む導入教育にも通じる。参加した学生の1人は、「企業で働く管理栄養士がどんな仕事をしているのかを一緒に体験し、自分が本当にしたいことを考えるよい機会になりました。」という感想を寄せた。

さらに、表4に示したように、地域連携事業参加の期間を1年次から2年次2年間に拡大して社会人基礎力との関連を検討したところ、3年次4月には、食育プロジェクト、商品開発プロジェクトともに、参加あり群で参加なし群より「情況把握力」が有意に高い値を示した。「情況把握力」は、2年次4月の結果(表3)でも3年次4月の結果(表4)でも両プロジェクトで参加あり群が参加なし群より有意に高くなっており、特に地域連携事業で向上が期待できる能力要素であることが示唆された。

食育プロジェクトに1年次も2年次も参加した学生が多いのは、複数回参加の学生の興味関心が高いこととともに、選択する授業、部活動、アルバイトの関係で時間の都合がつきにくい学生がいることが関係する。商品プロジェクトは、大学で課外の時間を活用して進め、担当者ができるだけ多くの希望者に経験させるように配慮している。そのため、1年次も2年次も参加した学生は1名のみで、2年次に10名が新たに参加した。1年次から2年次2年間の参加あり群となし群を比較した場合、地域連携事業参加前の1年次4月に、商品開発プロジェクトでは、参加あり群の方が参加なし群より『考

え抜く力』、「創造力」、「ストレスコントロール力」が有意に低かった(表4)。1年次のみでの参加を対象とした両群の比較では参加前にどの能力要素にも有意な差がみられなかった(表3)ことから、2年次にはむしろこれらの能力が低い学生が新たに参加したと考えられる。しかしながら、地域連携事業参加後の3年次4月には、これらの能力は参加あり群で参加なし群より有意な差には至らないがより高い向上を示した(表4)。この結果からも、1年次のみでの地域連携事業参加を対象とした前述の結果からも、学生の中で向上しにくい『考え抜く力』や評価の低い「創造力」の向上に商品開発プロジェクト参加が有効であることが示された。

本研究の限界点として、学生の自己評価のみによる検討であり他者の評価が含まれないこと、対象者が限られ1学年のみであること、地域連携事業参加の有無のみで回数は考慮していないこと、1事業に対する前後の評価ではなく年次ごとの評価であるため地域連携事業のみの効果ではない可能性があることが挙げられる。今後は、複数の大学で実践されている社会人基礎力の育成プログラム⁹⁾を参考に、社会人基礎力を育成のための指標として活用することも検討し、地域連携事業による学生の実践力の向上に繋げていきたい。

V. ま と め

地域連携事業参加の有無と学生の自己評価による社会人基礎力との関連を明らかにして、地域連携事業が管理栄養士課程の学生に及ぼす効果について検討した。地域連携事業のうち商品開発プロジェクトへの参加は、学生の中で向上しにくい『考え抜く力』とその能力要素であり評価が低い「創造力」の向上と関連しているこ

とが示された。「状況把握力」は食育プロジェクトでも、商品開発プロジェクトでも参加することにより向上し、地域連携事業で向上が期待できる能力要素であることが示唆された。

文献

- 1) 経済産業省：社会人基礎力、<http://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/> (2015年9月15日)
- 2) 経済産業省：評価シート集 プログレスシート、<http://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/h19reference.htm> (2015年9月5日)
- 3) 大宮めぐみ、清原昭子、木野山真紀：企業で働く栄養士・管理栄養士の勤務実態と期待される知識・能力に関する調査研究、栄養学雑誌、70、173-180 (2012)
- 4) 五十嵐美絵、吉田 亨：市町村栄養士の事業マネジメントに関する自己効力感とその要因、栄養学雑誌、69、148-159 (2011)
- 5) 経済産業省：「社会人基礎力を育成する授業30選」実践事例集、http://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/25fy_chosa/Kiso_30sen_jireisyu.pdf (2015年9月5日)